

1-4-6. 薩南諸島の植物多様性に関する植物標本・現況調査

田金 秀一郎

Assessment of plant species diversity for the Flora of Satsunan Islands based on herbarium specimens and field surveys

TAGANE Shuichiro

鹿児島大学総合研究博物館

Kagoshima University Museum, Kagoshima University

要旨

薩南諸島の植物相の知見を蓄積することを目的として、鹿児島大学総合研究博物館の植物標本室 (KAG) に収蔵されている植物標本のデータベース化の推進とその情報の分析、および甌島列島、屋久島、黒島、奄美大島、徳之島の現地調査を実施した。現地調査や標本調査を通じ、環境省や鹿児島県のレッドデータブックで絶滅種とされていたホソバノキミズを奄美大島で再発見したほか、サケバキンチャク、ヒメミクリガヤツリ、ハイクサネム、ホウキガヤツリなどを県内で新たに帰化植物として確認し、また長崎県五島列島から日本新産のオオヒメキセワタの報告を行った。また、各島で 100m×5m のベルトトランセクト調査を行い、生育する植物多様性に関する基礎的知見を集積した。

はじめに

広く亜熱帯性気候に覆われ、様々な地史を有する多くの島嶼で構成される薩南諸島は、植物の種多様性が高く、固有種や北限種、南限種が多いことで知られている (鹿児島県 2016)。その一方、植物相に関する研究が十分になされているとは言い難く、鹿児島県レッドリスト改訂版 (鹿児島県 2016) では 33 分類群が未記載として裸名が用いられ、126 分類群が絶滅危惧の評価をするには情報不足の種として挙げられている。また、近年は都市化に伴う土地改変、過疎化に伴う里山の荒廃、増加する帰化植物との競合、シカの個体数増加に伴う過食圧など、植物を取り巻く環境は刻々と、そして時に劇的に変化しており、植物の利用や保全を考えるには、その植物分類群を正しく認識し、基礎的知見を 1 つ 1 つ蓄積した上で、最新の情報を活用していく必要がある。

本研究では、薩南諸島の植物相の知見を蓄積し、希少種の現状把握をすることを目的として、鹿児島大学総合研究博物館に収蔵されている植物標本のデータベース化を加速させるとともに、その情報の分析と現地調査を実施した。

方法

鹿児島大学総合研究博物館の植物標本室において、未整理標本の整理と配架済み標本のデータベースへの登録作業を加速させ、未同定の標本が確認された場合はその都度分類群を詳細に検討した。現地調査は 2020 年 4 月～2021 年 1 月までに甌島列島 (2 回)、屋久島 (2 回)、三島村黒島 (2 回)、奄美大島 (4 回)、徳之島 (1 回) にて実施した。確認された植物は必要に応じて証拠標本を作成し、鹿児島大学総合研究博物館の植物標本室 (KAG) に収蔵した。

結果と考察

未整理標本の整理と配架済み標本のデータベースへの登録作業では、期間中に 32,029 点の標本情報を登録し、KAG データベース (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/hyouthonsitu.html>) で公開している標本数は 2021 年 12 月末の時点で 149,044 件となった。

現地調査や標本調査を通じ、奄美大島では日本では約 100 年間記録されておらず環境省・鹿児島県レッドデータブックで「絶滅種」とされていたホソバナキミズを再発見（田金ほか 2020）したほか、新しく県内に帰化したサケバキンチャクソウ（徳之島、田金ほか 2020）、ヒメミクリガヤツリ、ハイクサネム、ホウキガヤツリ（奄美大島、川西ほか 2021）などを見出し、報告を行った。長崎県の五島列島には九州南部～沖縄に分布しているヒメキセワタの分布が隔離的に知られていたが（中西 2015）、標本を精査した結果、ヒメキセワタそのものではなく中国に分布する同属の *Matsumurella chinensis* であることが確認されたため、日本新産のオオヒメキセワタとして報告した（Tagane et al. 2021）。

現地調査では植物多様性の基礎データを収集するため、100 m×5 m のベルトトランセクトを各島で実施し、調査区内で確認された維管束植物を全て記録した：甌島 1 地点（88 spp. in 404 m）、屋久島 3 地点（88 spp. in 208 m, 106 spp. in 275 m, 99 spp. in 306 m）、三島村 3 地点（45 spp. in 37 m, 93 spp. in 254 m, 69 spp. in 567 m）、奄美大島 4 地点（79 spp. in 95 m, 102 spp. in 208 m, 97 spp. in 388 m, 109 spp. in 625 m）、徳之島 3 地点（74 spp. in 199 m, 95 spp. in 411 m, 113 spp. in 584 m）（括弧内は調査地の標高と確認された植物種数）。

今後も継続して調査研究を行い、基礎的知見を集積することで各島の植物多様性をより明らかにしていきたい。

引用文献

- 鹿児島県 (2016) 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物— 鹿児島県レッドデータブック 2016— 植物編. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島, 499 pp.
- 川西基博, 田金秀一郎, 大西亘. (2021) 鹿児島県の外来植物 XI: ヒメミクリガヤツリ, ハイクサネム, ホウキヌカキビ を奄美大島で確認. *Nature of Kagoshima* 48: 73–77.
- 田金秀一郎, 丸野勝敏, 中川優花里, 宮本句子. (2020) 鹿児島県の外来植物 I: ヨシススキとキンチャクソウ属の 1 種サケバキンチャクソウ (新称). *Nature of Kagoshima* 46: 481–485.
- 中西弘樹 (2015) 長崎県植物誌. 長崎県新聞社, 長崎市. 388 pp.
- Tagane S, Nakanishi H (2021) *Matsumurella chinensis* (Lamiaceae), new to the flora of Japan. *The Journal of Japanese Botany* 96(3): 175–179.